

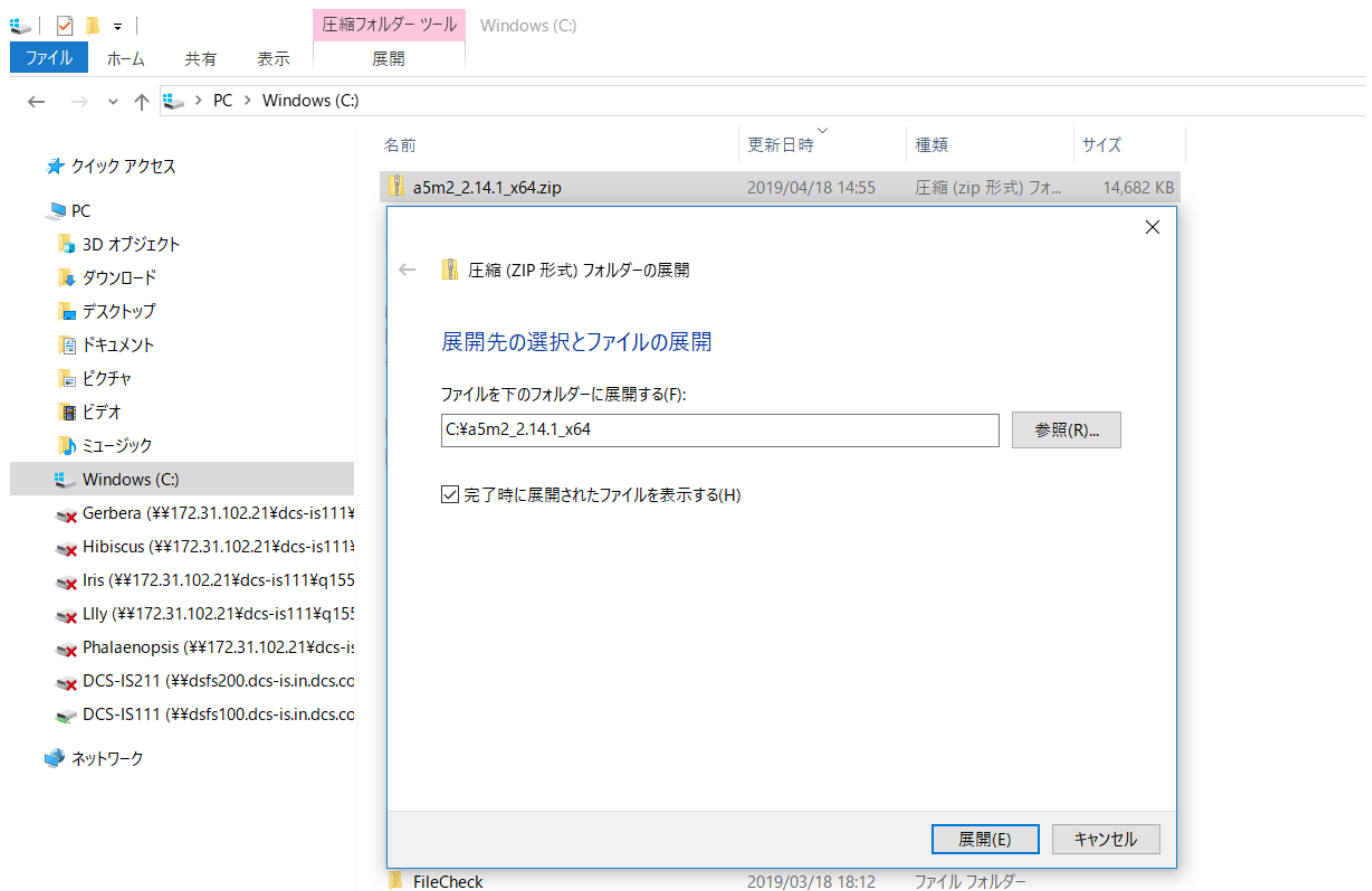
A5:SQL Mk-2 導入手順書

この資料について

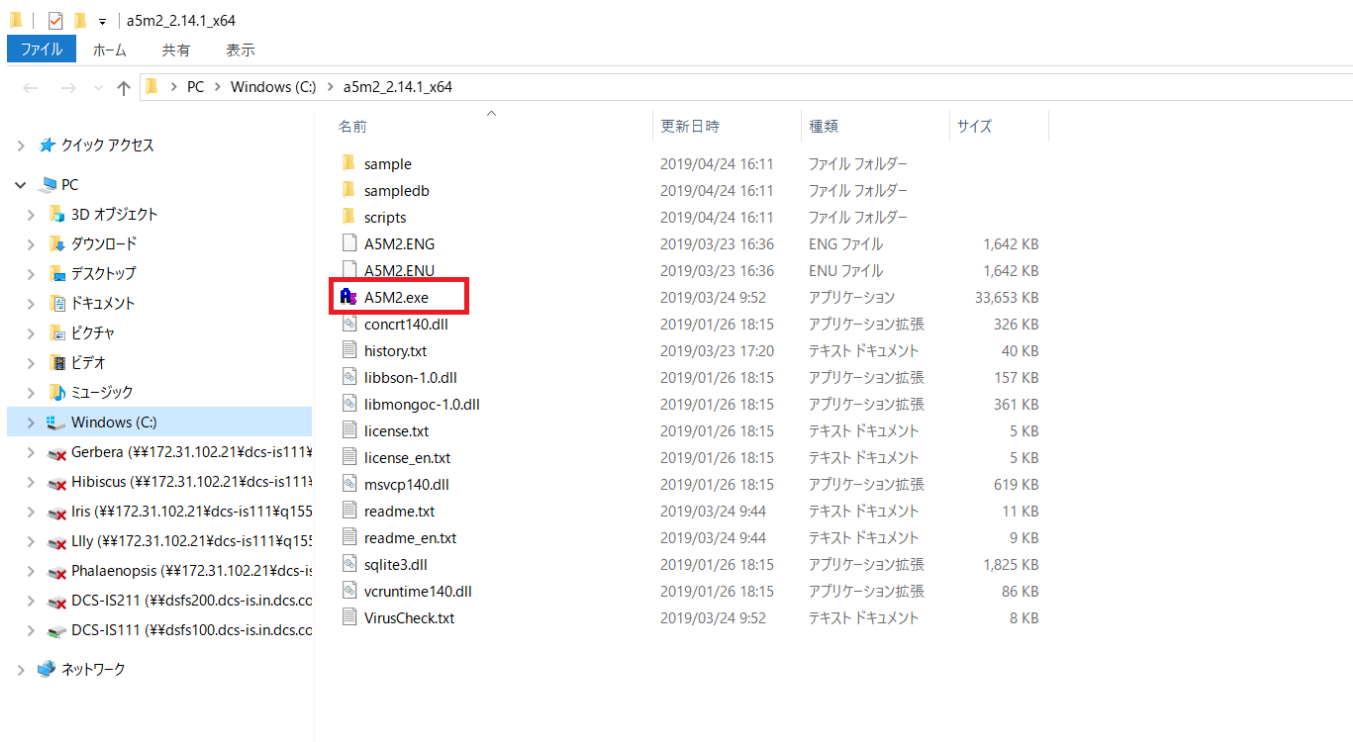
- 汎用SQL開発環境であるA5:SQL Mk-2(以下、A5M2)の導入手順を解説する。
- A5M2の初期設定を行い、データベースに接続する手順を解説する。
- テーブルの表示と、SQLの実行方法について解説する。

1. A5M2の起動

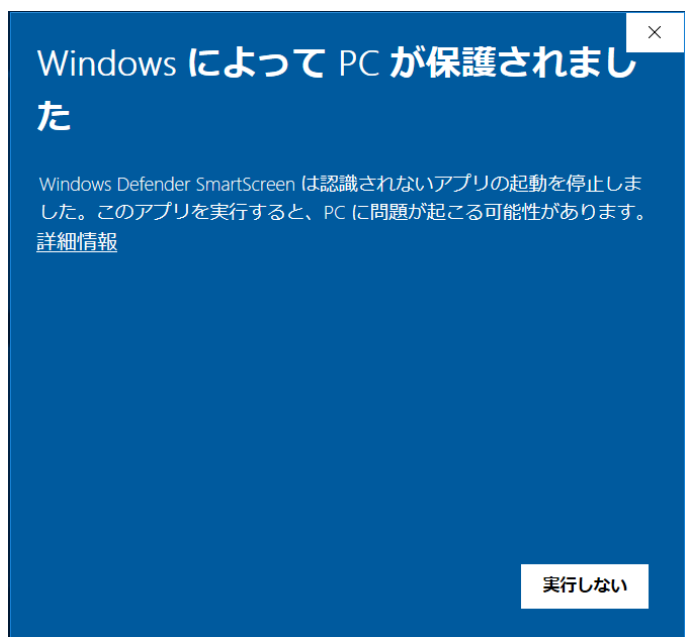
- C直下にダウンロードした a5m2_2.14.5_x64.zip ファイルのアイコンを右クリックし、"すべて展開" -> "展開"を押下する。



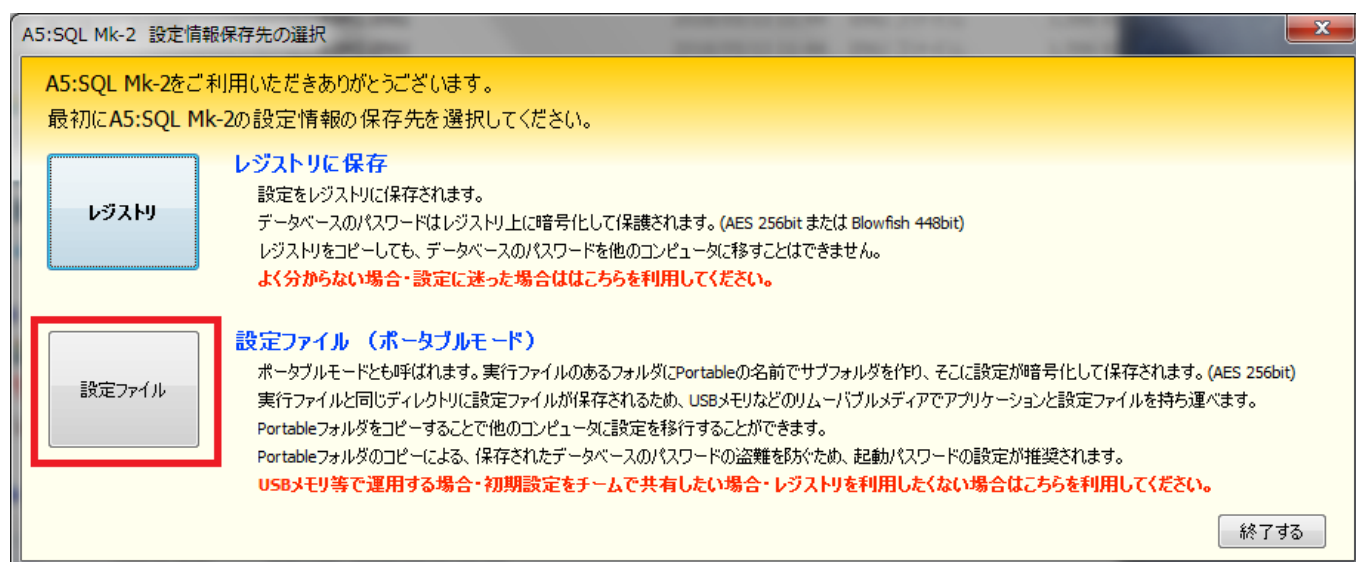
- ダウンロードした.zipファイルと同一の場所に解凍済みのファイルが保存される。
- 解凍したフォルダ内の、A5M2.exeをダブルクリックして、A5M2を起動する。



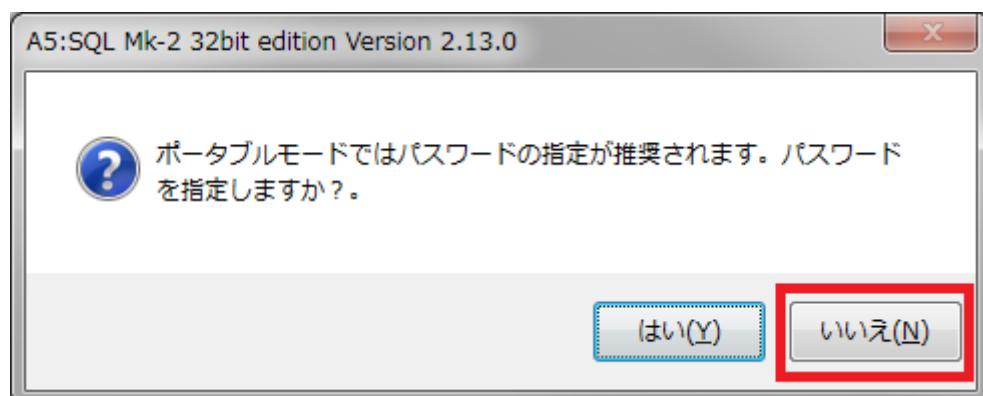
- 初回起動時は、以下のポップアップが表示されることがある。
- "詳細情報"ボタンを押下する。
- "実行"ボタンを押下する。



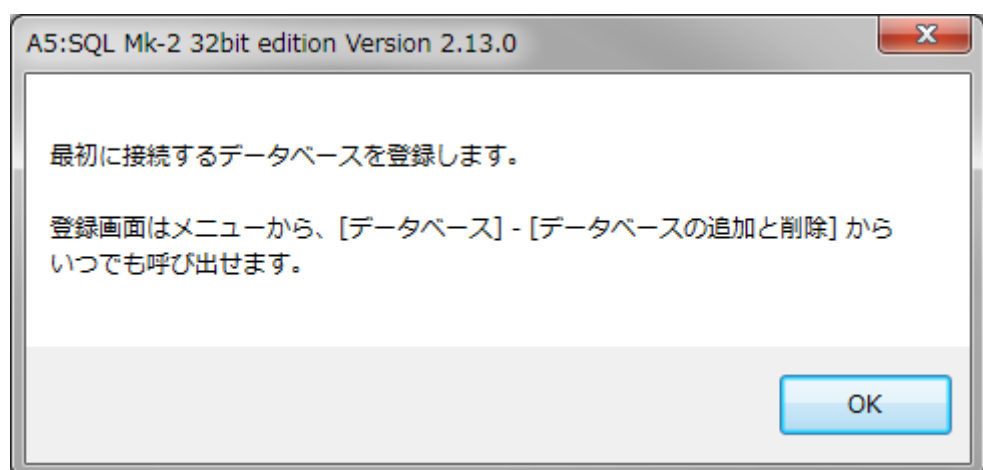
- 初回起動時は、以下のウィンドウが表示される(表示されない場合は4. A5M2の設定へ)
- "設定ファイル"ボタンを押下する。



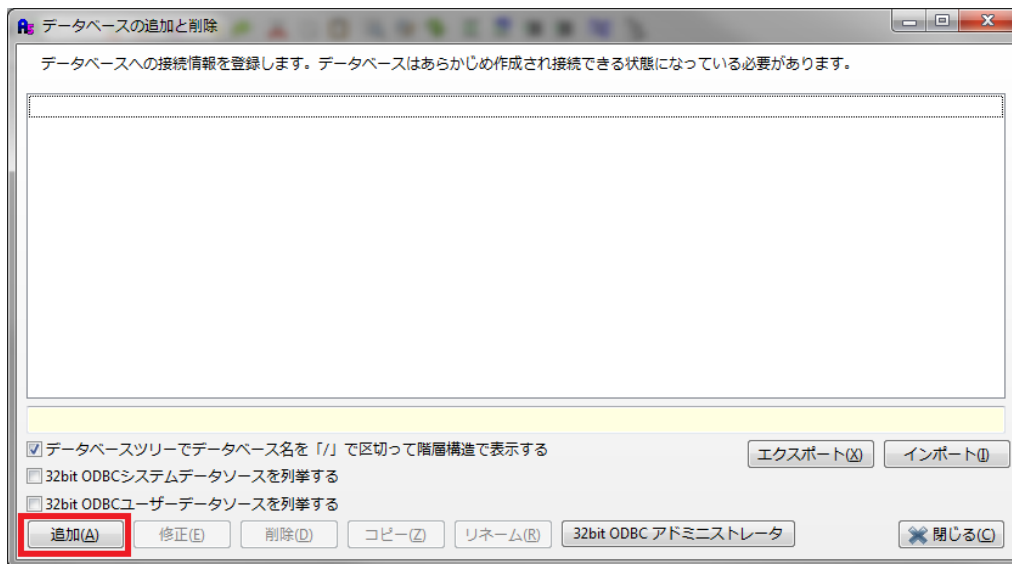
- パスワードの設定を勧める旨のダイアログが表示される。
- 今回は、パスワードを設定しない。"いいえ"を押下する。



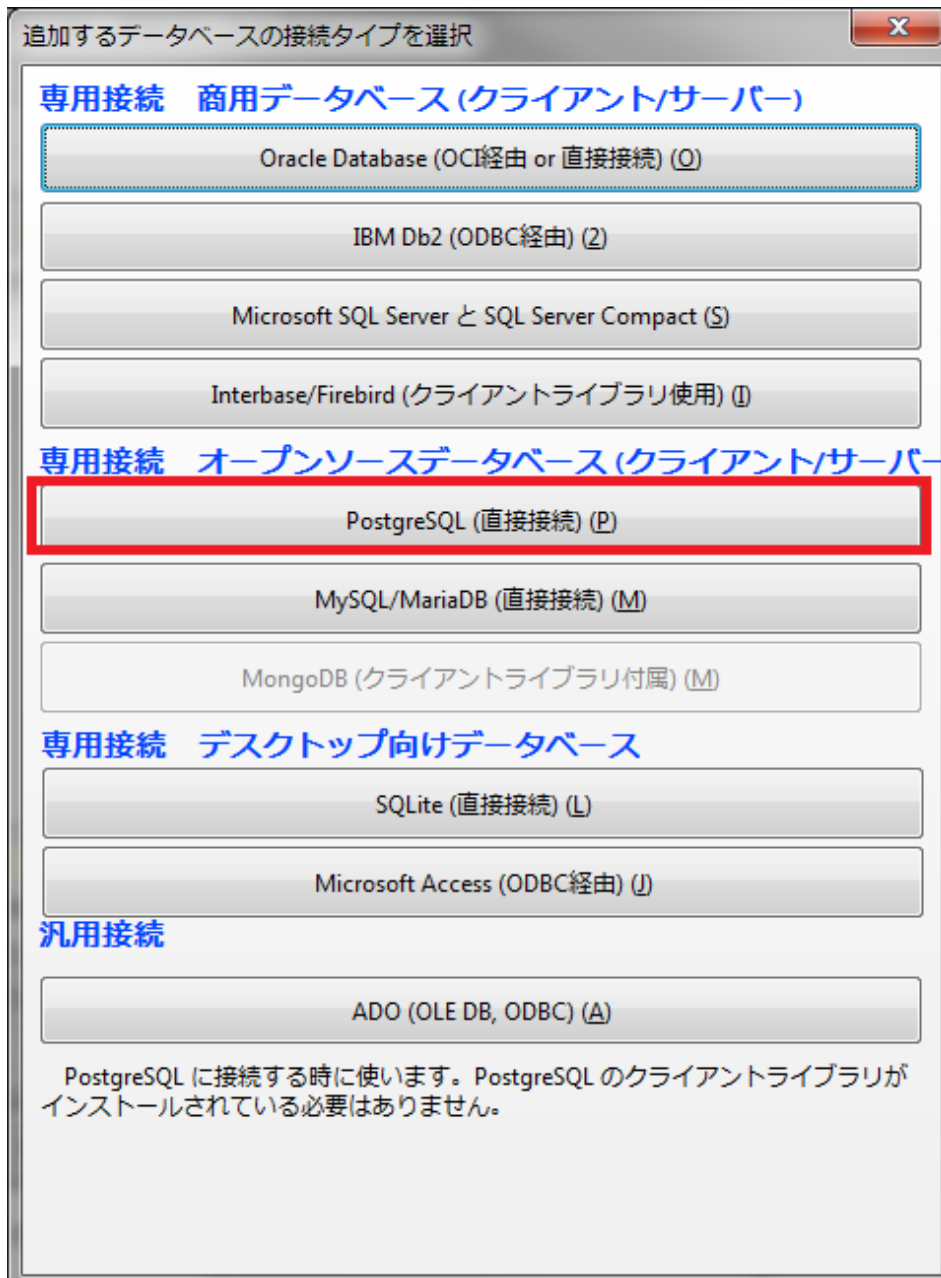
- 接続先データベースを設定する。"OK"ボタンを押下する



- データベースの追加と削除ウィンドウが表示される。
- 左下の"追加"ボタンを押下する。



- データベースの接続タイプを選択する。
- 今回の研修で接続するデータベースはPostgreSQLのため、"PostgreSQL(直接接続)"を押下する。



- データベースの接続情報を入力する。

- 入力する値は以下の通り。
 - サーバ名: 172.31.63.76
 - データベース名: user + 研修ID(3桁)
 - 例: 研修IDが100の場合: user100
 - ユーザーID: (データベース名と同一)
 - パスワード: (データベース名と同一)
 - パスワードを保存する: チェックを**入れる**
 - (その他の項目: 初期値)
- 正しく入力ができていることを確認して"テスト接続"ボタンを押下する。

データベースの内容を登録 - PostgreSQL (直接接続)

基本 SSL SSH2トンネル その他

サーバー名: 172.31.63.76 ポート番号: 5432

データベース名: user***

ユーザーID: user***

パスワード: ●●●●●●

☒ パスワードを保存する

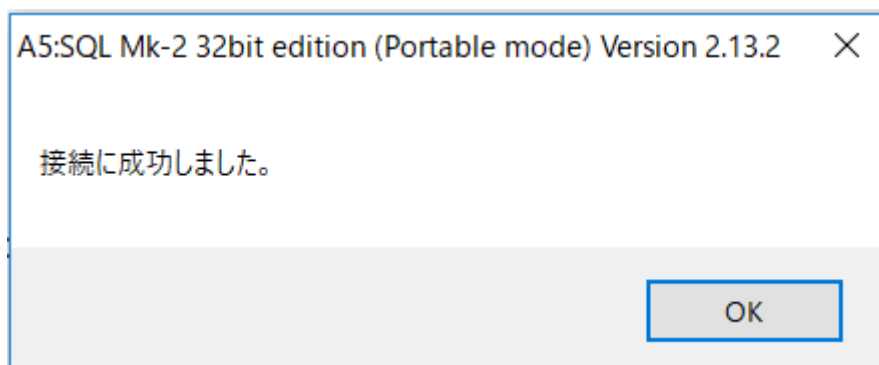
プロトコル・バージョン: 3.0 (PostgreSQL 7.4~)

☐ IPv6を使用して接続する

色: ■ (None)

テスト接続 OK キャンセル

- 正しく接続ができた場合、"接続に成功しました"と表示される。
- "接続に成功しました"と**表示されない**場合は、入力に誤りがないか確認する。



データベースの内容を登録 - PostgreSQL (直接接続)

基本 SSL SSH2トンネル その他

サーバー名 172.31.63.76 ポート番号 5432

データベース名 user***

ユーザーID user***

パスワード ●●●●●●

☒ パスワードを保存する

プロトコル・バージョン 3.0 (PostgreSQL 7.4~)

☐ IPv6を使用して接続する

色 ■ (None)

テスト接続 OK キャンセル

- "OK"ボタンを押下すると、データベース別名の設定ダイアログが表示される。
好きな名前を入力して"OK"ボタンを押下する。

A5:SQL Mk-2 で識別するデータベース別名を入力

データベース別名

172.31.63.76/user100/新人研修用DB

OK キャンセル

- "データベースの追加と削除"ウィンドウに、追加したデータベースの情報が表示されていることを確認し、右下の"閉じる"ボタンを押下する。

データベースの追加と削除

データベースへの接続情報を登録します。データベースはあらかじめ作成され接続できる状態になっている必要があります。

172.31.63.76/user100/新人研修用DB (PostgreSQL)

☒ データベースツリーでデータベース名を「/」で区切って階層構造で表示する

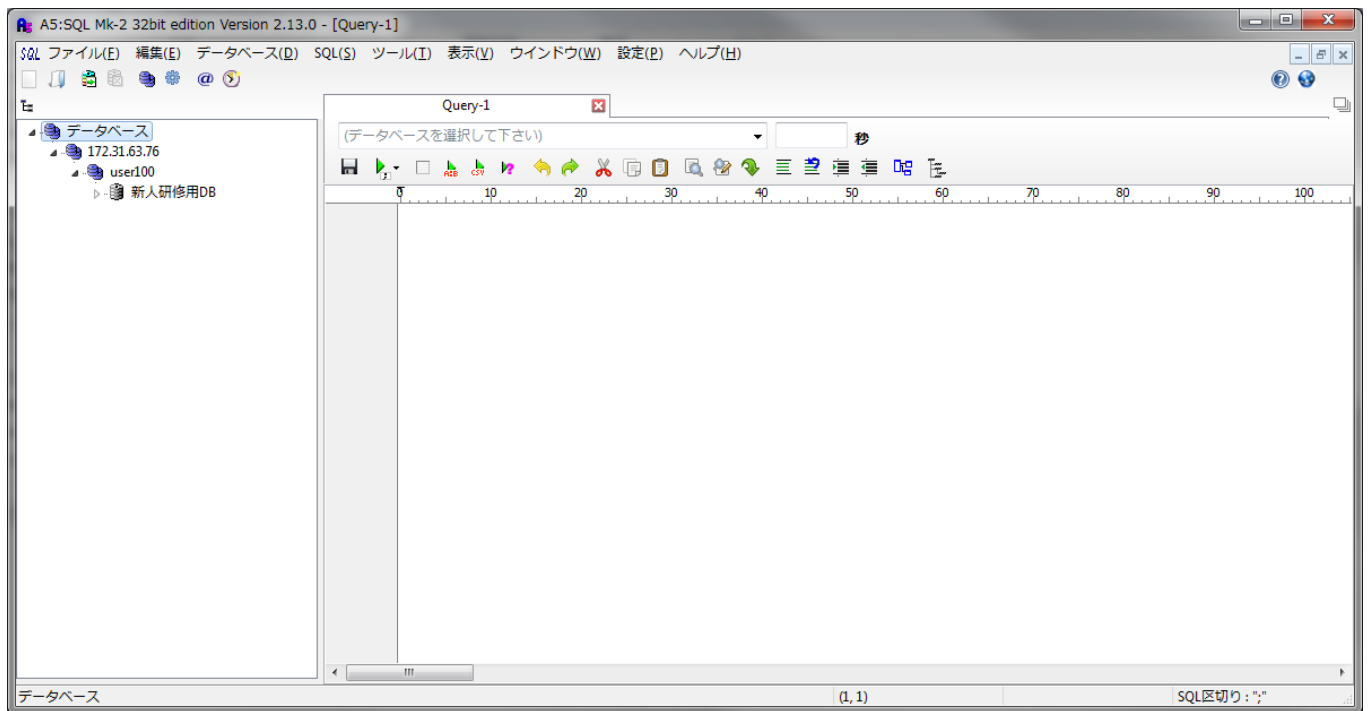
☐ 32bit ODBCシステムデータソースを列挙する

☐ 32bit ODBCユーザーデータソースを列挙する

追加(A) 修正(E) 削除(D) コピー(Z) リネーム(R) 32bit ODBC アドミニストレータ

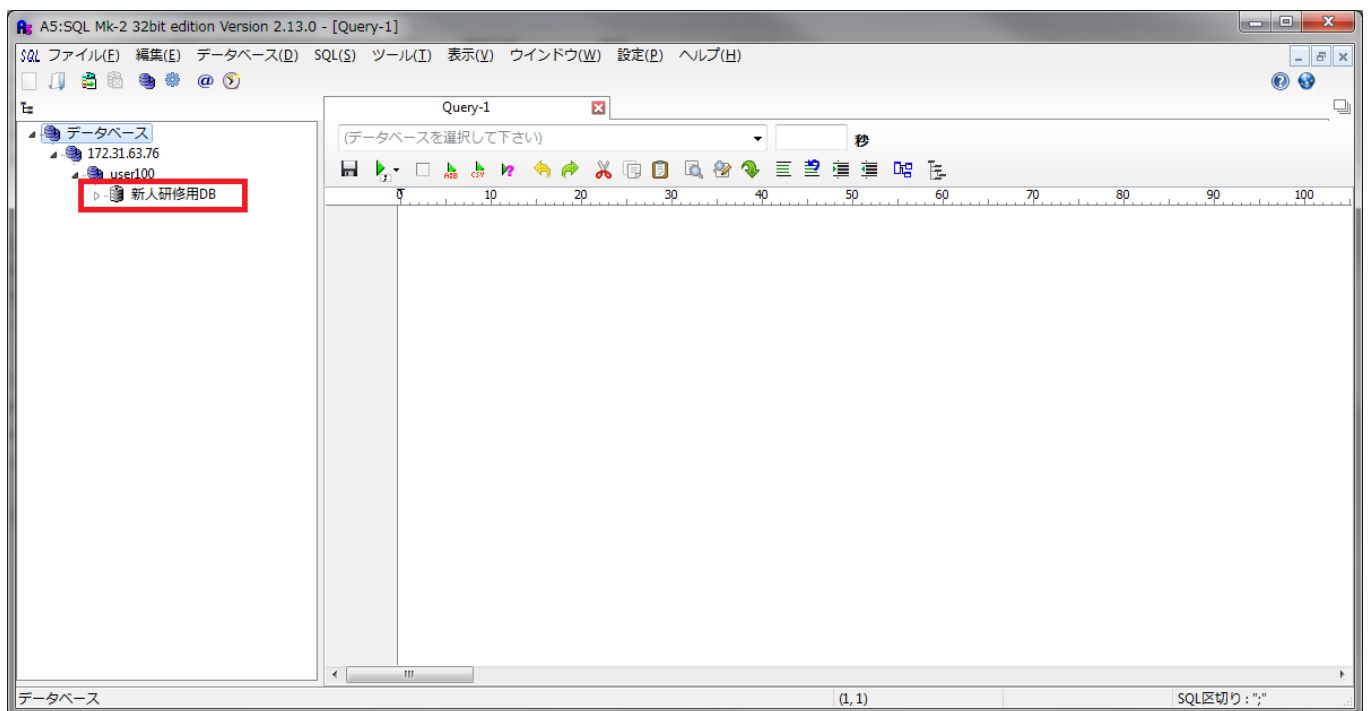
エクスポート(O) インポート(I)

閉じる(C)

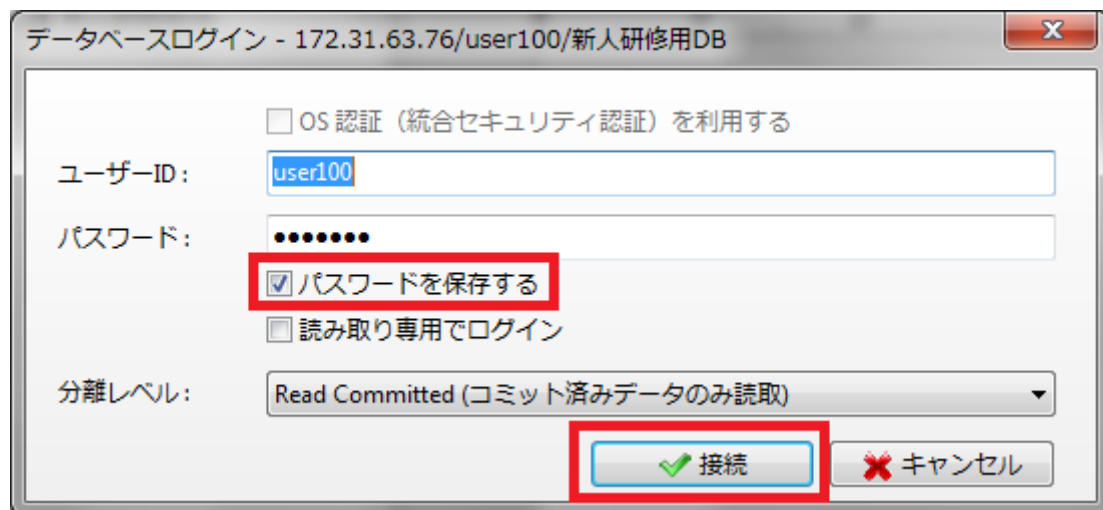


2. テーブルの表示

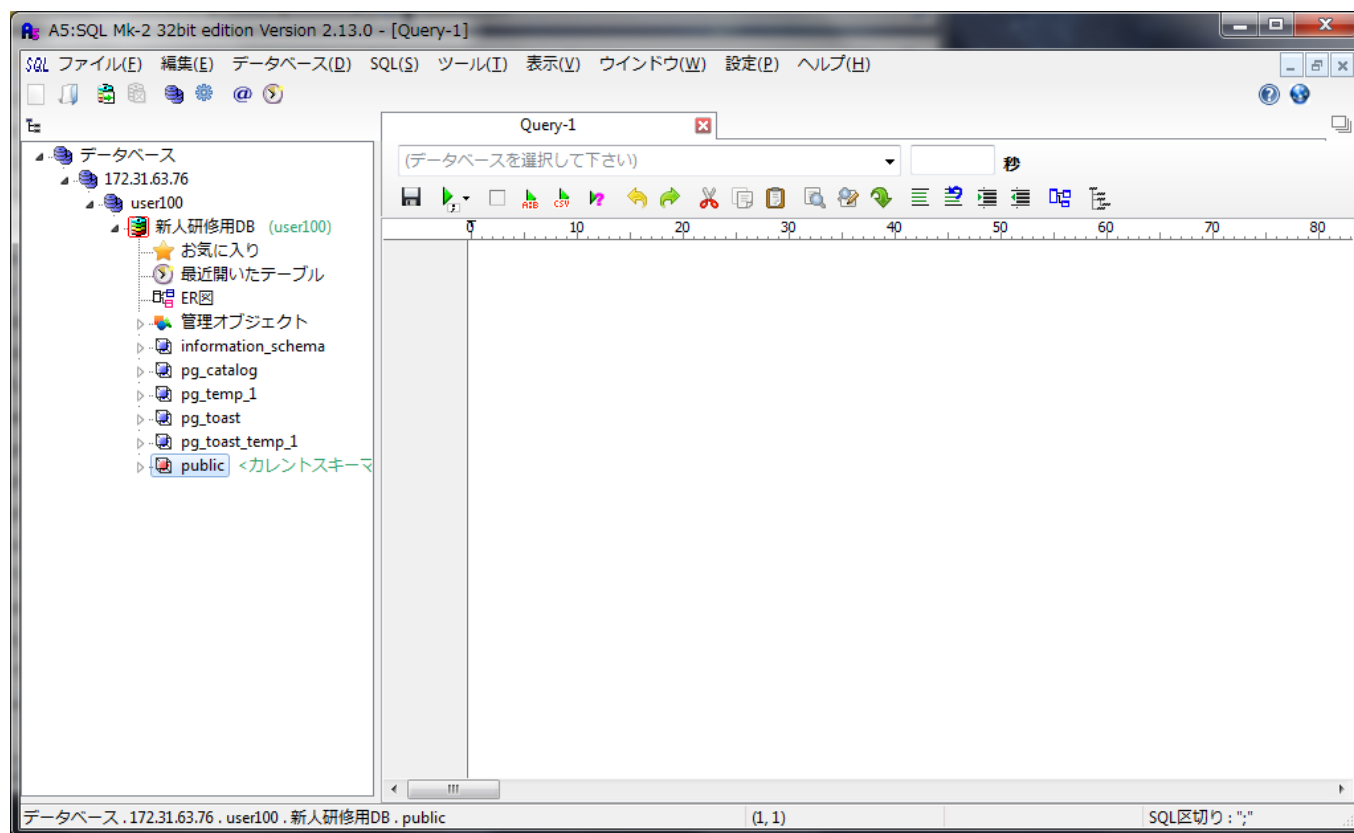
- 画面左側のデータベースのアイコン(自分でつけたデータベース別名が書かれた円柱)をダブルクリックすると、以下のダイアログが表示される。



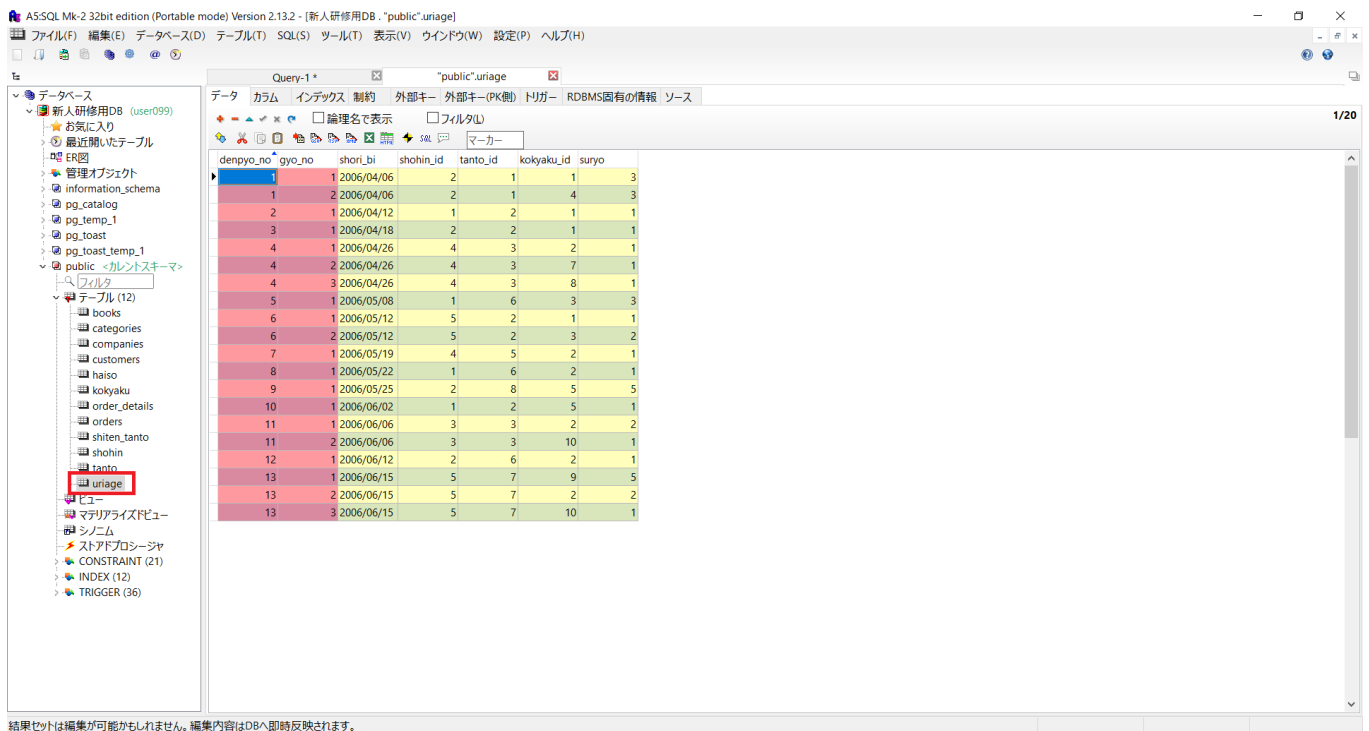
- 接続ボタンを押下する。



- データベースへ接続され、ツリーが展開される。



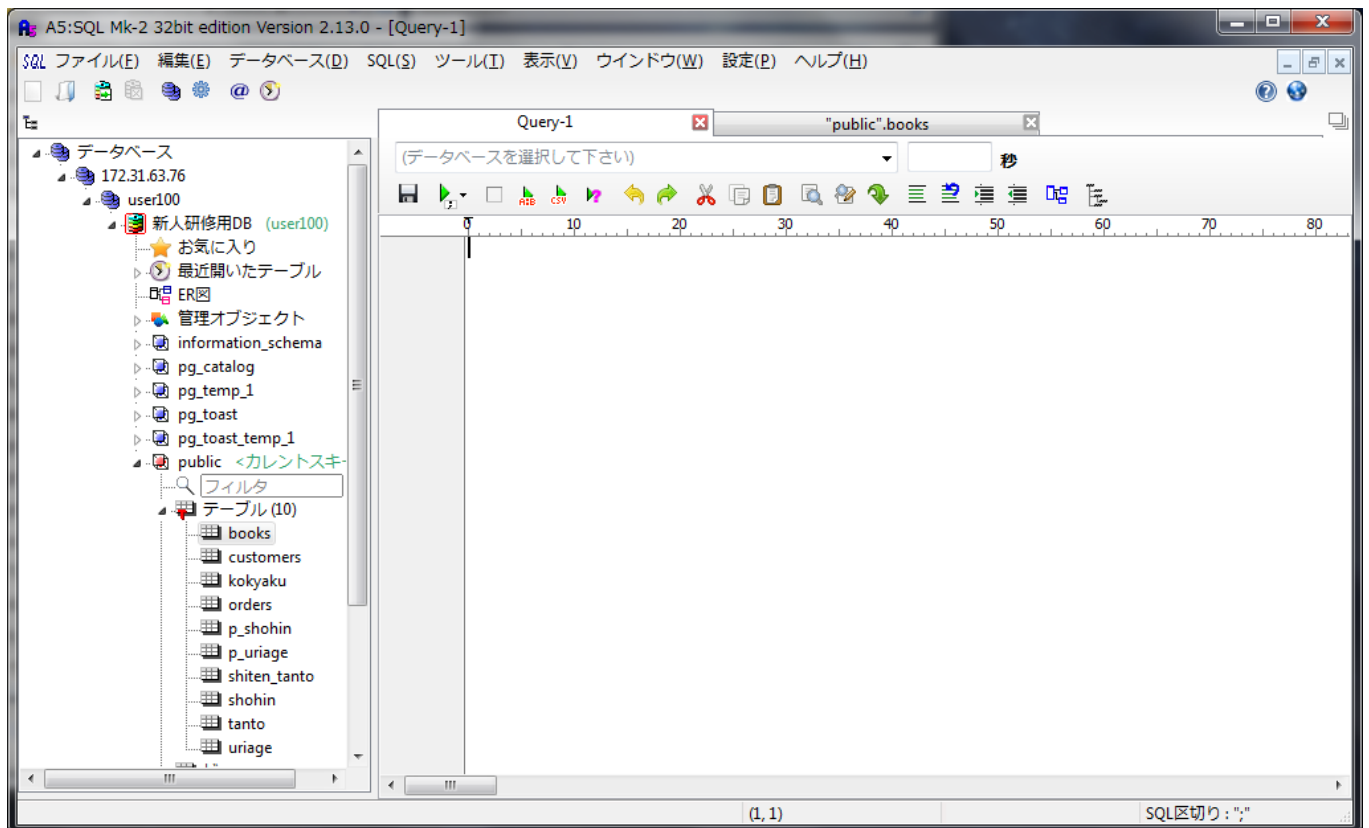
- 展開されたツリーの最下部にある"public" -> "テーブル" -> (任意のテーブル名)の順にダブルクリックし、選択したテーブルの全レコードが表示されることを確認する。



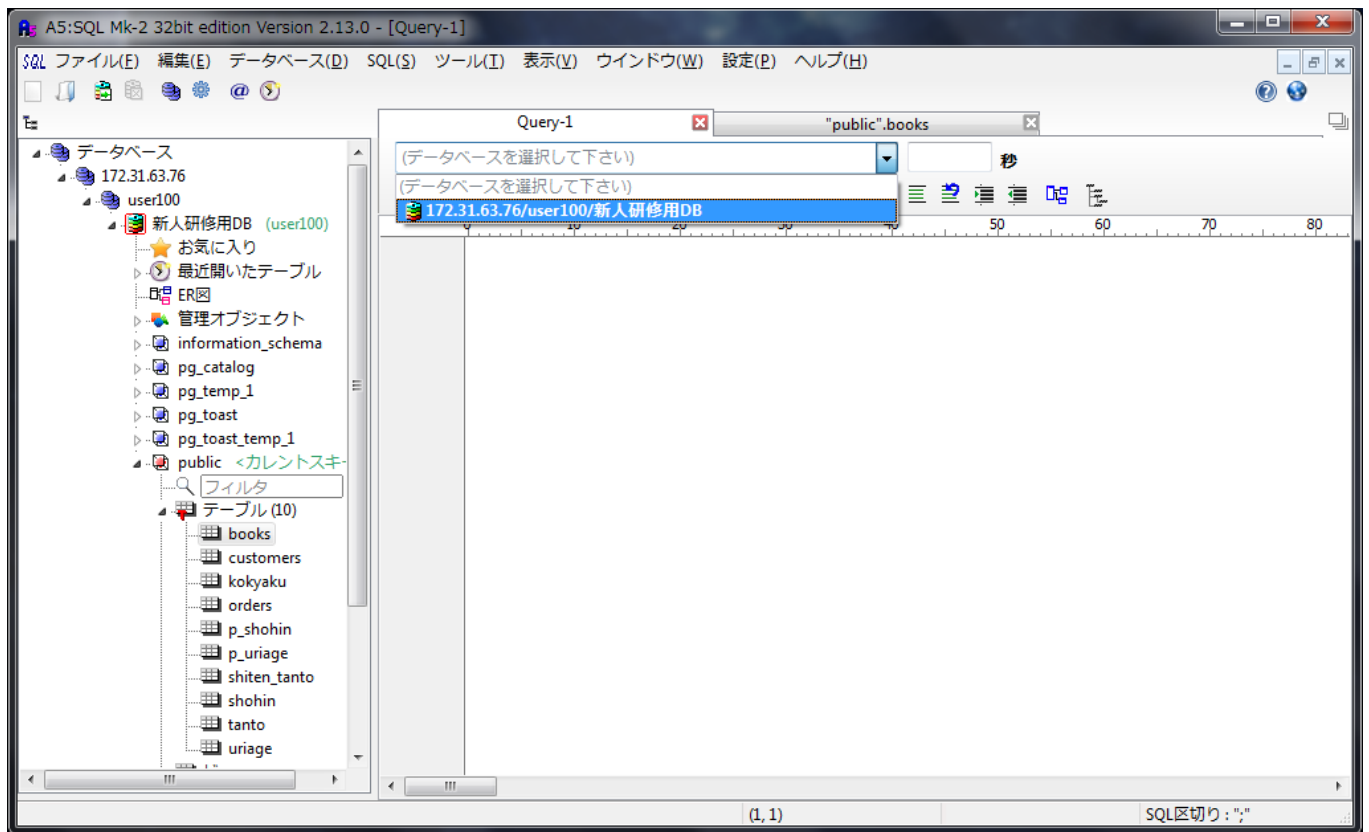
結果セットは編集が可能かもしれませんが、編集内容はDBへ即時反映されます。

3. SQLの実行

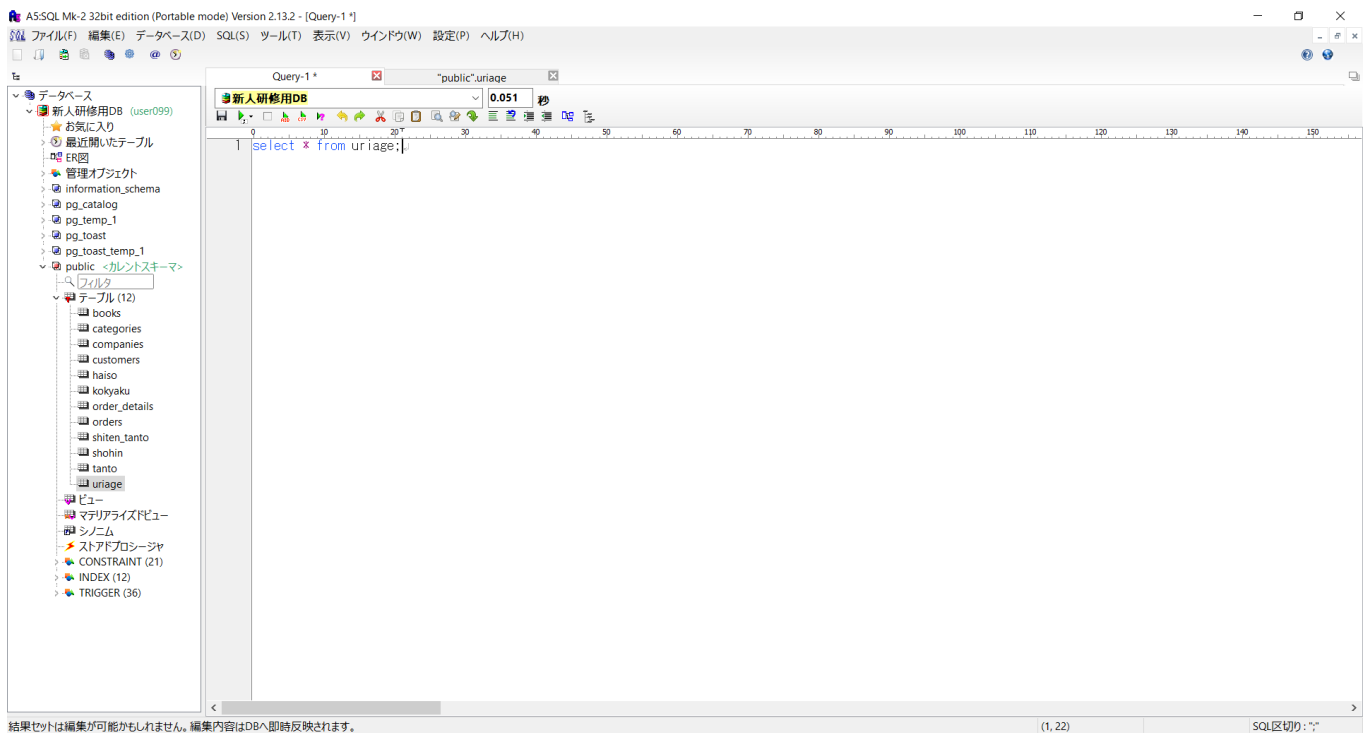
- 画面上部の"Query-1"タブをクリックする。



- (データベースを選択してください)と表示されているリストボックスをクリックし、起動時に設定したDBを選択する。



- 任意のSQLを記述する。



- SQLを実行する。実行方法は以下の2パターン。
 - カーソルを;の前に移動させてからF5キーを押す
 - 実行したいSQLを選択(反転)してからF5キーを押す
- SQLが実行され、その結果が画面下部に表示される。

AS/SQL Mk-2 32bit edition (Portable mode) Version 2.13.2 - [Query-1 *]

ファイル(F) 編集(E) データベース(D) SQL(S) ツール(T) 表示(V) ウィンドウ(W) 設定(P) ヘルプ(H)

データベース

新人研修用DB (user099)

お気に入り

最近開いたテーブル

ER図

管理オブジェクト

information_schema

pg_catalog

pg_temp_1

pg_toast

pg_toast_temp_1

public <カレントスキーマ>

フィルタ

テーブル (12)

books

categories

companies

customers

haiso

kokuyaku

order_details

orders

shiten_tanto

shohin

tanto

uriage

ビュー

マテリアライズドビュー

シノニム

ストアドプロシージャ

CONSTRAINT (21)

INDEX (12)

TRIGGER (36)

Query-1 *

public.uriage

新人研修用DB 0.051 秒

select * from uriage

1/20 (0.051s) フィルタ(L)

マーカー

No.1

denpyo_no	gyo_no	shori_bi	shohin_id	tanto_id	kokuyaku_id	suryo
1	1	2006/04/06	2	1	1	3
1	2	2006/04/06	2	1	4	3
2	1	2006/04/12	1	2	1	1
3	1	2006/04/18	2	2	1	1
4	1	2006/04/26	4	3	2	1
4	2	2006/04/26	4	3	7	1
4	3	2006/04/26	4	3	8	1
5	1	2006/05/08	1	6	3	3
6	1	2006/05/12	5	2	1	1
6	2	2006/05/12	5	2	3	2
7	1	2006/05/19	4	5	2	1
8	1	2006/05/22	1	6	2	1
9	1	2006/05/25	2	8	5	5
10	1	2006/06/02	1	2	5	1
11	1	2006/06/06	3	3	2	2
11	2	2006/06/06	3	3	10	1
12	1	2006/06/12	2	6	2	1
13	1	2006/06/15	5	7	9	5
13	2	2006/06/15	5	7	2	2
13	3	2006/06/15	5	7	10	1

結果セットは編集が可能です。編集内容はDBへ即時反映されます。

(1, 21) U+003B SQL区切り: ;

以上